

(説明資料)

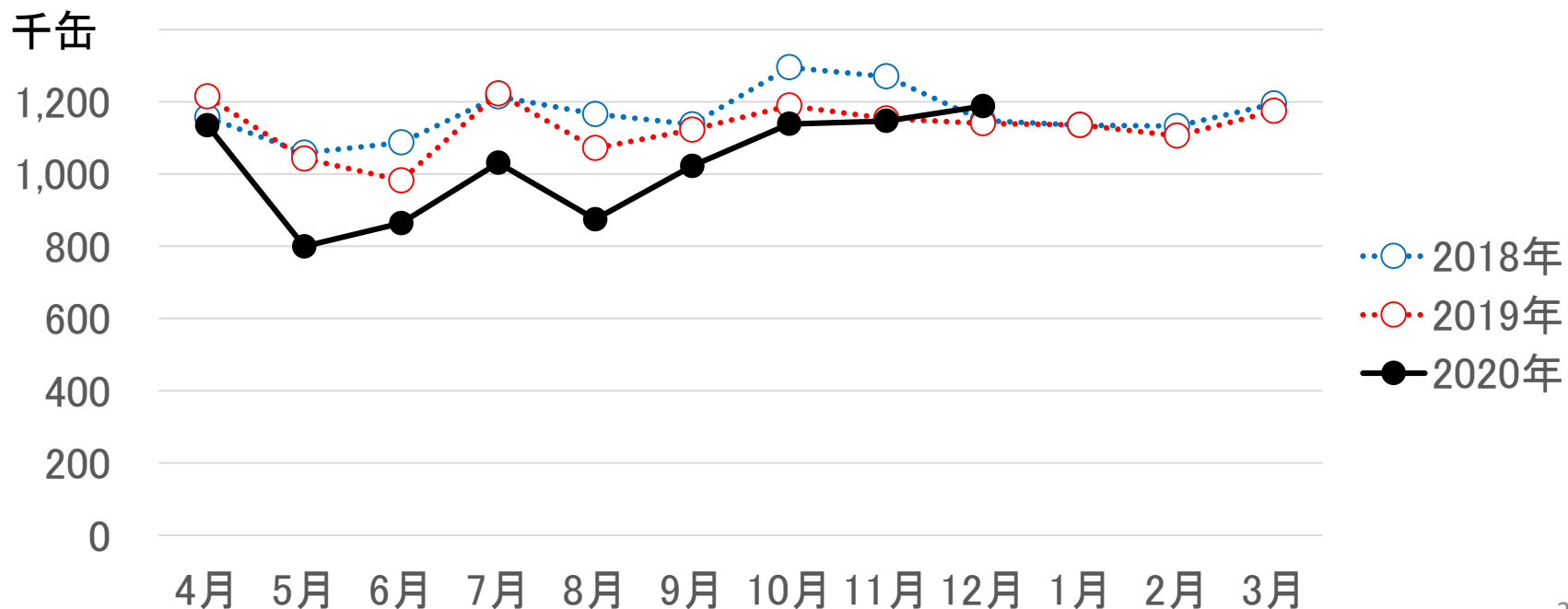
2020年度第3四半期決算

21年1月28日

JFEコンテナ株式会社

ドラム事業販売環境(国内 全国200リットル缶数量)

当第3四半期連結累計期間(2020年4-12月)におけるわが国経済は、世界的なコロナ禍の影響で大幅に悪化した後、第一波の収束による緊急事態宣言の解除、政府の緊急経済対策やワクチンの早期普及への期待等から特に後半にかけて持ち直しを見せています。当社の主要な需要家である化学・石油業界も急激な減産に見舞われた後に上記を受けて回復に向かい、当社の事業分野である産業用容器業界の全国200リットル新缶ドラム缶の販売実績は、12月には前年同月を若干上回るどころまで回復しましたが、4-12月全体では前半の落ち込みが大きく前年同期比9.3%減の9,201千缶となりました。(4-9月では前年同期比14.0%減)



ドラム事業販売環境(中国)

ドラム事業販売数量・売上高

当社が国内とならんで事業展開している中国においても同様に後半での景気回復が見られましたが、当期に計上されるのは落ち込みの最も激しかった時期を含んだ1-9月となることもあって、事業環境は国内に比べても厳しいものとなっています。

この事業環境の悪化を受けて国内、中国とも販売数量は大幅に落ち込み、両者を合わせた販売数量は前年同期比▲12.3%減の6,405千缶となり、売上高はこの販売数量減を主因に前年同期比▲2,369百万円、▲10.8%減収の19,598百万円となりました。

単位:千缶/百万円

	2019年4-12月	2020年4-12月	差	増減率
全国販売数量	10,143	9,201	▲942	-9.3%
当社販売数量(国内+中国)	7,307	6,405	▲901	-12.3%
当社売上高(国内+中国)	21,968	19,598	▲2,369	-10.8%

ドラム事業及び高圧ガス事業経常利益

ドラム事業

国内、中国ともに大幅な数量減を余儀なくされたことに加えて、ドラム缶の主要な材料となる鋼材の市況価格が2020年後半に急騰しており、こうした中で当社としては回復し始めた需要を的確にとらえていくことは勿論、従来から進めている品種構成改善や変動費削減、経費圧縮その他のコストダウン等のあらゆる企業努力を尽くして収益改善を図りましたが、2020年4-12月のドラム事業経常利益は前年同期比▲242百万円、▲11.9%の減益の1,796百万円となりました

高圧ガス容器事業

在宅医療用酸素容器についてコロナ禍の影響による外出自粛で需要が停滞する等の悪影響を受けており、高圧ガス容器事業全体としての売上高も前年同期比▲81百万円、▲44.6%減収の101百万円となり、経常損益も▲11百万円赤字拡大の▲131百万円となりました。

単位：百万円

	2019年4-12月	2020年4-12月	差	増減率
経常利益	1,947	1,699	▲247	-12.7%
ドラム事業	2,038	1,796	▲242	-11.9%
高圧ガス容器事業	▲119	▲131	▲11	
その他	28	34	6	22.2%

連結売上高・経常利益・当期純利益

以上の各セグメントを合わせた当期の当社の連結業績は
 売上高が前年同期比▲2,451百万円、▲11.1%減収の19,700百万円、経常利益は前年同期比▲247百万円、▲12.7%減益の1,699百万円となりました。

尚、物流合理化により不要となった資産の売却や従業員退職年金制度変更による特別利益を計上しており、当期純利益は前年同期比+55百万円、+4.3%増益の1,352百万円となりました。

単位：百万円

	2019年4-12月	2020年4-12月	差	増減率
売上高	22,151	19,700	▲2,451	-11.1%
営業利益	1,856	1,520	▲336	-18.1%
経常利益	1,947	1,699	▲247	-12.7%
特別損益	-90	223	313	
法人税等	-560	-570	-10	
親会社株主に帰属する当期純利益	1,297	1,352	55	4.3%
売上高経常利益率	8.8%	8.6%	-0.2%	-1.9%

高圧ガス事業について

蓄圧器用水素容器

圧力範囲の適正化及び長寿命を両立させた『大容量普及型タイプ¹蓄圧器』の販売を開始いたしました。100～450リットル(中圧型)の多様な内容積を取り揃えてステーション毎の個別のニーズに応えることで建設コストの低減にも寄与し、水素自動車の普及、水素社会の実現に大いに資する製品と考えております。また当社が一昨年出荷した広い圧力レンジを持つタイプ²蓄圧器を使った豊田豊栄水素ステーション(愛知県)も昨年12月25日から運用を開始しました。今後とも水素供給・活用の一層の拡大を進めるべくお客様のニーズに一層応えていく事で、環境に優しい持続可能な社会の実現に貢献して参ります。

複合容器

日本初となる水素燃料電池ドローン用容器の経済産業大臣特認を取得し、本年1月より水素燃料電池ドローンの飛行が可能となりました。従来のバッテリー型ドローンに比較して飛行時間や積載重量の飛躍的拡大が可能であり、環境に優しいドローンの利用拡大に欠かせない要素技術と考えております。